

特集展示

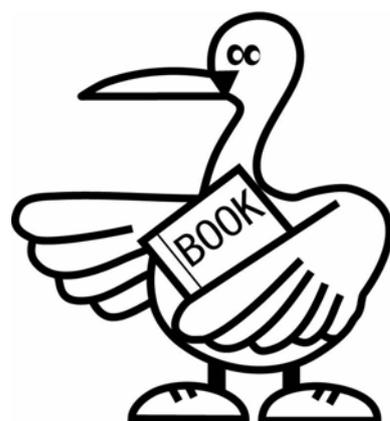
平和の本

目録 平成22年（2010年）版

「戦時下の平塚を本で読む」

平塚市 平和月間

平成22年7月12日（月）～平成22年8月15日（日）



平塚市図書館
HIRATSUKA CITY LIBRARY

平塚市の平和月間にちなみ、平塚市図書館では毎年、平和や戦争をテーマとした特集展示を行ない、また、図書館で所蔵する平和や戦争に関する資料を紹介する目録を作成しています。

今年は「戦時下の平塚を本で読む」をテーマに図書を紹介しています。戦争体験者でない方が増える中、私たちの身近な場所に戦争が何をもたらしたのかを知るきっかけになれば幸いです。

目次

戦時下の平塚を本で読む	・・・・・・・・・・・・・・・・	1 ページ
新しい平和の本・DVDのリスト	・・・・・・・・・・・・・・・・	11 ページ

戦時下の平塚を本で読む

1. 『市民が探る平塚空襲』証言編

著者 平塚の空襲と戦災を記録する会編
出版者 平塚市博物館
出版年 1998年
所蔵館 分類
中央館 貸出室 KY213.7 (書庫)
中央館 参考室 HY8
北館 一般 KY213.7 (書庫)
西館 一般 KY213.7

.....

平成元年(1989年)に平塚の空襲と戦災を記録する会が発足しました。それ以来行なわれた134名を越える市民からの聞き取りと共に、当時の写真や戦災地図なども多く収録されており、平塚空襲や当時の様子がより詳しく分かると共に、視覚に強く訴えかける内容となっています。エピローグでは「今振り返る平塚空襲」として、平塚空襲に関するいくつかの疑問についての考察がされている点が他の本との違いとなっています。

2. 『市民が探る平塚空襲』資料編 1

著者 平塚の空襲と戦災を記録する会編
出版者 平塚市博物館
出版年 2003年
所蔵館 分類
中央館 貸出室 KY213.7
中央館 参考室 HY8
北館 一般 KY213.7
西館 一般 KY213.7
南館 一般 KY213.7

.....

この本は、先に紹介した『市民が探る平塚空襲』証言編に続くものです。ここには、平塚空襲に関する資料の中でも、主に旧・大野町に関する資料が収録されています。当時の写真や調査結果を記した表もふんだんに盛り込まれ、さ

らには平塚市内の各地区の被害を復元した地図も収録されています。客観的な情報から平塚空襲に迫った本です。さらに、同資料編では、2と3も刊行されています。

3. 『火薬廠のある街で 戦時下の県立平塚高等女学校』

著者 戦時下の県立平塚高女を記録する会編

出版者 夢工房

出版年 1997年

所蔵館 分類

中央館 貸出室 KY213.7

中央館 参考室 KH213

北館 一般 KY916

西館 一般 KY916

南館 一般 KY213.7

平塚高等女学校とは、現在の平塚江南高校の前身ですが、ここの女学生であった人々の手記を中心として、太平洋戦争の開戦から終戦までをたどった本です。開戦後、敵の言葉として英語教育が廃止され、学校内のバラまで抜かれてしまったエピソードは時代の雰囲気をよく反映しています。また、当時の寄せ書き、日記なども所々に引用されているほか、写真、絵なども多く収録されており、当時の様子がよく理解できる内容となっています。



4. 『硝煙の街・平塚 空襲と海軍火薬廠』

著者 創価学会青年部反戦出版委員会編
出版者 第三文明社
出版年 1977年
所蔵館 分類
中央館 貸出室 KY916
中央館 参考室 KH217
北館 一般 KY916

.....

この本は、終戦から32年後の昭和52年に出版された本で、平塚で戦争を経験した46名の人々がそれぞれの体験の手記をまとめたものです。手記の多くが、昭和20年(1945年)7月16日の平塚空襲に関するものであり、登場する地名の多くは現在も使用されているため、位置関係も理解できます。特に、飛行機からの機銃掃射によって我が子を失った母親の手記は戦争の悲惨さをよく伝えています。

5. 『平塚の戦争遺跡』

著者 土井浩編
出版者 平塚市博物館
出版年 2001年
所蔵館 分類
中央館 貸出室 KY291.37
中央館 参考室 HY8
北館 一般 KY291.37
西館 一般 KY291.37
南館 一般 KY291.37

.....

海軍火薬廠をはじめとした軍需工場が集まり、県下有数の工業都市として栄えた平塚市は、それゆえに昭和20年(1945年)7月16日、「平塚大空襲」と呼ばれる大規模な攻撃を受け焦土と化しました。その影は60年以上経った現在でもその一部を見ることができます。

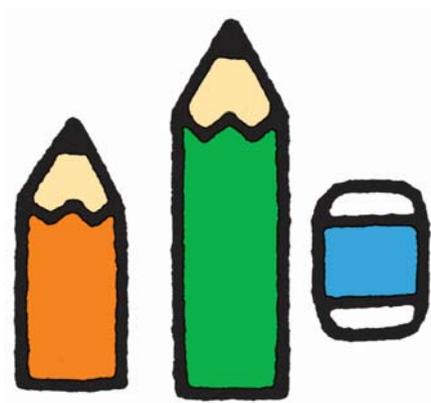
平塚市博物館が編集した本書はそれら平塚に残された戦争遺跡を紹介した資料で、わたしたちの身近なところでも戦争の痕跡が残されていることを教えてください。

6. 『平和の文集』

著者	I LOVE PEACE	事業運営委員会編
出版者	平塚市	
出版年	1993年	
所蔵館	分類	
	中央館 貸出室	KY213.7
	中央館 子供室	KY213
	中央館 参考室	HY8
	北館 一般	KY213.7
	西館 一般	KY213.7

.....

平塚市は、さきの戦争で戦災を被り市域の7割が焼失しました。その後、年月の経過とともに、当時の記憶が忘れられようとしています。そこで、平塚市では、貴重な戦災体験を広く市民から募集して、この文集ができました。「平塚大空襲の体験談」「戦時中の体験談」「小・中学生の平和に関する作文」などから構成されています。



7. 『44万7716本の軌跡 平塚の空襲と戦災』

出版者 平塚市博物館
出版年 1995年
所蔵館 分類
中央館 貸出室 KY210.75
中央館 参考室 HY8

.....

タイトルの44万7716本とは、昭和20年(1945年)7月16日から17日未明にかけて、B29爆撃機132機により投下された焼夷弾の数です。この数は、一夜の投弾数としては全国で一・二を争う規模のものです。その結果、死者237人、重軽傷者268人、罹災戸数7678戸の被害を蒙りました。こうした事実から、戦後50年・平塚大空襲50年にあたり「平塚大空襲」の実態を市域に残る戦中・戦後の資料を通して紹介した平塚市博物館特別展示の図録が本書であります。展示期間は平成7年7月15日(土)～8月30日(水)でした。

8. 「イペリット眼」

この作品の単行書はなく、次の図書に収録されています。

『現代日本文学大系』48

出版者 筑摩書房
出版年 1972年
所蔵館 分類
中央館 貸出室 918.6(書庫)
西館 一般 918.6

.....

本書は、昭和17年(1942年)平塚市の第二海軍火薬廠附属病院の眼科医師として赴任した藤枝静男がここでの治療体験をもとにして書かれたもので、第21回芥川賞(昭和24年度上半期)の候補作ともなり、藤枝文学の代表作のひとつでもあります。あらすじは、次のとおりです。

~~~~~

昭和19年10月、海軍火薬廠内にある技研（海軍技術研究所）の少年工員たちが、目を患い附属病院眼科主任・島村章のもとに治療に来る。しかし、島村には、この病気の原因と治療法がわからず、工員たちに作業内容を問うが、彼らは機密保持のため答えない。その後、彼ら工員たちは毒瓦斯（イペリット）の充填作業に従事し、防毒マスクも一応貸与されているが時々はずしていることを知り、原因は判明した。しかし、この治療には特効薬はなく、ただ作業を休み療養に努めるほかない。時局がらこれが無理であるなら、せめて工員たちのために、簡単な洗眼装置をつくることを技研へ提案するが、無知・無理解な技研軍医により拒否される。以後、少年工員たちは、島村のもとには来なくなった。

~~~~~

当時の火薬廠上層部の無気力、退廃した雰囲気に対して、自分たちの病因も知らされず命令を忠実に守り、早く病気をなおして国家のために海軍航空隊に入ることを望む少年工員たちとの対称的な状況が書かれています。

.....

「イペリット眼」は以下の図書にも収録されています。

『戦争文学全集』5

出版者 毎日新聞社

出版年 1972年

所蔵館 分類

中央館 貸出室 918.6 (書庫)

『藤枝静男著作集』第4巻

著者 藤枝静男

出版者 講談社

出版年 1977年

所蔵館 分類

中央館 参考室 KH918 (書庫)

『戦後占領期短篇小説コレクション』第4巻

出版者 藤原書店

出版年 2007年

所蔵館 分類

中央館 貸出室 913.68

9. 『今ここ』

著者 藤枝静男
出版者 講談社
出版年 1996年
所蔵館 分類
中央館 参考室 KH914 (書庫)
北館 一般 914.6

.....

この作品も著者は藤枝静男です。没後刊行されたエッセーであり、この中の第Ⅲ部が「静男巻談」となっていて、その中に(33. 終戦前夜と45. 昭和十九年)自分が眼科医として勤務していた海軍火薬廠附属病院の様子、市内の戦災、さらには『イペリット眼』に書かれているのと同じ少年工員たちのことが描かれています。

10. 『図説戦争の中の子どもたち』

著者 山中恒
出版者 河出書房新社
出版年 1989年
所蔵館 分類
中央館 貸出室 KY384.5 (書庫)
中央館 参考室 KH210
西館 一般 384.5

.....

本書の著者は、児童文学作家の山中恒です。氏は、北海道の小樽市で生まれ、小学生の時、平塚市へ転居し、平塚市第二国民学校(現在の市立港小学校)に入学しました。この本には、第二国民学校生徒での体験や様子を写真や絵などを使いさらに校舎配置図や学校の鳥瞰図も描かれていて、たいへんわかりやすく解説されています。また、戦時下の子どもたちの生活についても書かれています。

1 1. 『平塚市戦没者名鑑』

著者	平塚市教育委員会編		
出版者	平塚市教育委員会		
出版年	1959年		
所蔵館	分類		
	中央館	貸出室	KY281.03
	中央館	参考室	HC9
	北館	一般	KY281.03 (書庫)
	西館	一般	KY281.03
	南館	一般	KY281

この本は、平塚市図書館の初代館長である桜井諒が4年にわたって調査した戦没者の人名録です。明治、大正、昭和にわたる2300名を地区別に記載し、さらに西南の役からはじまり太平洋戦争までの戦役略誌、遺族の手記などが収録されています。なお、追録が1959年に刊行されました。

1 2. 『平塚市傷痍軍人名鑑』

著者	平塚市市史編さん室編		
出版者	平塚市教育委員会		
出版年	1961年		
所蔵館	分類		
	中央館	参考室	HC9
	北館	一般	KY281.03 (書庫)
	南館	一般	KY281 (書庫)

本書は、さきの『平塚市戦没者名鑑』の姉妹篇として刊行されました。編集・発行は、市史編さん室の桜井諒と本市傷痍軍人会長の原田広光の両名の協力の元に出ました。内容は、地区別の傷痍軍人名簿、傷痍軍人更正施設である元・平塚自動車部品製作所(平塚傷兵工場)と貴峯荘授産所の紹介および西南の役から太平洋戦争までの各戦役略誌などからなっています。

13. 『平塚戦災復興誌』

出版者 神奈川県
出版年 1967年
所蔵館 分類

中央館 貸出室 KY519.8
中央館 参考室 HX1
北館 一般 KY518.8
西館 一般 KY518.8
南館 一般 KY518.8 (書庫)

.....

平塚市は、昭和20年(1945年)7月16日の「平塚大空襲」で市内314ヘクタールが焦土と化し、7200戸が焼失、31000人が罹災しました。終戦後、近代的商工都市建設をめざし、戦災復興事業が行われ、昭和42年(1967年)に終了し、これを記念して本書が刊行されました。なお、昭和25年(1950年)には、一応ではありながらも復興の目星がついたということで、平塚復興祭が行われており、苦しいながらも力強い復興を遂げた様子がうかがえます。ちなみに、全国的に有名な「湘南ひらつか七夕まつり」は、この平塚復興祭の成功をきっかけに翌年から始まり、今年(2010年)は第60回となりました。



新しい平和の本・DVDのリスト

平成21年6月1日から平成22年5月31日に

図書館に入った本・DVDの一覧

戦争と平和に関する図書・DVD（一般向け）

タイトル	著者	出版者	出版年	所蔵情報	
				館名	書架請求記号
終わらないラブレター－祖父母たちが語る「もうひとつの戦争体験」－	桜林美佐著	PHP研究所	2009	中央館	2階文学 916 サ K
海軍学徒兵硫黄島に死す	多田実著	産経新聞出版	2009	中央館	2階文学 916 タ K
呉・江田島・広島戦争遺跡ガイドブック	奥本剛著	光人社	2009	中央館	2階歴史 217.6 オ K
坂井三郎「大空のサムライ」研究読本	郡義武著	光人社	2009	中央館	2階社会 391.2 コ K
				西館	2階7 391.2 コ K
14歳からの戦争論（ジョルダンブックス）	西部邁著	ジョルダン	2009	中央館	2階社会 319.8 ニ K
14歳の君へ －どう考えどう生きるか－	池田晶子著	毎日新聞社	2006	中央館	2階YA YA 100 イ K
				西館	児1 100 シ I
				南館	YA YA 100 シ I
真珠湾攻撃の真実	太平洋戦争研究会編著	PHP研究所	2009	中央館	2階歴史 210.75 タ K
戦争体験－朝日新聞への手紙－	朝日新聞社編	朝日新聞出版	2010	中央館	2階文学 916 ア K
第二次世界大戦あんな話こんな話（文春文庫 タ 7-1）	ジェイムズ F. ダニガン著 アルバート A. ノーフィ著 大貫のぼる訳	文藝春秋	1995	中央館	寄贈棚 209.74 タ K
父が子に教える昭和史－あの戦争36のなぜ？－（文春新書 711）	半藤一利〔ほか〕著 藤原正彦〔ほか〕著 中西輝政〔ほか〕著 柳田邦男〔ほか〕著	文藝春秋	2009	中央館	2階歴史 210.7 ハ K
清ら島沖縄	企画財団法人沖縄協会		2007	北館	DVD D37 K 593
				西館	1階DVD D37 605
				南館	DVD一般 D37 K 735
「東京裁判」を読む	半藤一利著 保阪正康著 井上亮著	日本経済新聞出版社	2009	中央館	2階社会 329.67 ハ K
特攻隊振武寮－証言・帰還兵は地獄を見た－	大貫健一郎著 渡辺考著	講談社	2009	中央館	2階歴史 210.75 オ K
				西館	2階4 210.75 オ K
				南館	一般19 210.75 オ K

戦争と平和に関する図書・DVD（一般向け）

タイトル	著者	出版者	出版年	所蔵情報	
				館名	書架請求記号
ナガサキ消えたもう一つの「原爆ドーム」	高瀬毅著	平凡社	2009	中央館	2階歴史 219.3 タ K
				南館	一般19 219.3 タ K
ナガサキノート－若手記者が聞く被爆者の物語－（朝日文庫 あ50－1）	朝日新聞長崎総局編	朝日新聞出版	2009	中央館	2階文庫 B 369.37 ア K
日本人の戦争－作家の日記を読む－	ドナルド・キーン著 角地幸男訳	文藝春秋	2009	中央館	2階文学 910.26 ニ K
ノモンハン事件－機密文書「検閲月報」が明かす虚実－（平凡社新書 483）	小林英夫著	平凡社	2009	中央館	2階歴史 210.7 コ K
ノモンハン戦争－モンゴルと満洲国－（岩波新書 新赤版 1191）	田中克彦著	岩波書店	2009	中央館	2階歴史 210.7 タ K
ボイスライブラリー－無言館の証言	無言館編	新日本出版社	2009	中央館	2階文学 916 セ K
				南館	文学 916 セ K
炎の証言 第13号	平塚の空襲と戦災を記録する会／編	平塚市博物館	2010	中央館	3階地域資 HY8
ほびっと 戦争をとめた喫茶店－ベ平連1970－1975 inイワクニ－	中川六平著	講談社	2009	中央館	2階文学 916 ナ K
孫たちへの証言 第22集 あの時代の記憶を記録にとどめよう	福山琢磨企画・制作編	新風書房	2009	中央館	2階文学 916 フ K
ルソン戦線最後の生還兵－マニラ陸軍航空廠兵士の比島山岳戦記－	高橋秀治著	光人社	2009	中央館	2階文学 916 タ K



戦争と平和に関する図書（児童向け）

タイトル	著者	出版者	出版年	所蔵情報	
				館名	書架請求記号
いしぶみー広島二中一年生全滅の記録ー （ポプラポケット文庫 805-1）	広島テレビ放送編	ポプラ社	2009	南館	児童1 210 イ K
学研まんが日本の歴史 15 戦争への道 昭和時代・前期	田中正雄画	学習研究社	1990	中央館	1階1～7 210 カ I
				北館	児童しょこ 210 R
				西館	児1 210 カ K
				南館	児童1 210 W
金のひしゃくー北斗七星になった孤児たちー	増田昭一 絵・文	中国残留孤児 援護基金	2004	中央館	1階えほん E キ K
				西館	児9～12 913 キ K
はこちゃんのおひなさま（すずのねえほん）	丸田かね子 文 牧野鈴子 絵	銀の鈴社	2010	中央館	1階えほん E ハ L
春さんのスケッチブック（課題図書 2009年 5・6年生）	依田逸夫作 藤本四郎絵	汐文社	2008	中央館	1階 文学 913 ハ K
				北館	児童2～4 913 ハ K
				西館	書庫児童1 KA 913 ハ K
				南館	児童5～7 913 ハ J
				移動図	BM庫児童 913 ハ K
ひろしま国 ー10代がつくる平和新聞ー	中国新聞社 編	明石書店	2009	西館	児2～4 319 ヒ K
				南館	児童1 319 ヒ K
ヒロシマのいのちの水（えほんのもり）	指田和文 野村たかあき 絵	文研出版	2009	中央館	1階えほん E ヒ K
				西館	お話コーナ E ヒ K
				南館	えほん E ヒ K
				移動図	車内 児童 E ヒ K
歴史の流れがわかる時代別新・日本の歴史 12 昭和時代 後期		学研教育出版	2010	西館	児1 210 レ K
歴史の流れがわかる時代別新・日本の歴史 13 平成時代ー現代ー		学研教育出版	2010	西館	児1 210 レ K



核兵器廃絶平和都市宣言

わたくしたちのまち平塚は、過去に戦災を被り地域の多くを焼失した悲しい歴史をもつています。そして今のわたくしたちには、こうした惨禍をくり返すことのないよう、平和を守り次代へ引き継いでいく責務があります。

しかし、現在地球上には、数多くの核兵器が蓄えられ、人類に深刻な脅威を与えています。

世界の平和と安全は、すべての人の願いです。平塚市は、「国際平和の年」を迎えるにあたり、美しい地球と輝かしい未来を守るため、国是である非核三原則の順守とあらゆる核兵器の廃絶を願い、「核兵器廃絶平和都市」を宣言します

昭和六十年十二月二十日

平塚市

特集展示・平和の本 目録 平成22年版

平成22年（2010年）7月発行

編集 平塚市中央図書館

発行 平塚市中央図書館

〒254-0041

神奈川県平塚市浅間町1-2-41

電話 0463-31-0415
